



2025年度

事業計画

2025年3月

首都圏新都市鉄道株式会社

2025年度

事業計画

目次

はじめに	1
1 リスク管理と予防保全による安心と信頼の鉄道輸送の提供	
(1) リスク管理と安全管理体制の強化	2
(2) 予防保全による車両・設備の更新等の実施	3
(3) 防災・鉄道セキュリティ対策の強化	4
(4) 駅利用における安心の向上	6
2 豊かな暮らしを支えるサービスの提供	
(1) 混雑緩和対策の実施	8
(2) お客様の利便性・快適性の拡充	9
(3) 駅構内事業の充実	9
3 地域との沿線価値の共創	
(1) 沿線地域との連携強化のための基盤づくり	10
(2) 駅機能や保有資産を活用した沿線価値の向上	12
(3) 交通政策審議会答申プロジェクトへの対応	12
3 経営基盤の強化	
(1) 人的資本投資の強化	13
(2) 財務基盤の強化	14
(3) ガバナンスの強化	14
(4) 開業20周年に向けた取組み	14
2025年度 設備投資計画	15

はじめに

当社は2025年に開業20周年の節目を迎えます。この間、沿線人口の増加に伴い、輸送需要も順調に増加し、当社は、沿線の自治体やお客様に支えられながら鉄道事業を核として経営を進めてまいりました。コロナ禍で輸送需要が大きく落ち込んだ時期もありましたが、現在、お客様のご利用はコロナ禍以前の水準に戻り、一日平均乗車人員は過去最高の40万人台に達する見込みです。

一方、経年劣化した鉄道設備の大規模な更新が急務となっており、リスク管理と予防保全により安心と信頼の鉄道輸送を堅持しながら対応していきます。併せて、混雑緩和への対応として、8両化編成事業を着実に推進していきます。

また、地域密着型の鉄道として、今後とも、豊かな暮らしを支えるサービスを提供していくとともに、地域との沿線価値の共創に向けた、地域の関係者との連携強化のための基盤づくりに取り組みます。

さらに、昨今の物価高騰や働き手不足の状況を踏まえ、デジタル技術等を活用した生産性等向上や社員のエンゲージメント向上のほか、ガバナンスの強化等の社会的に要請されている課題への対応を通じて、経営基盤の強化に取り組みます。また、今年度は開業20周年に向けた取組みを通じて、ステークホルダーの皆様との関係性の強化を図ってまいります。

2025年度は、上記の考えの下に事業を実施していきます。

1 リスク管理と予防保全による 安心と信頼の鉄道輸送の提供

当社の安全方針である「安全の確保はすべてに優先する」に基づき、リスク管理の強化や予防保全による鉄道設備の的確な更新等に取り組み、お客様に安心してご利用いただける鉄道輸送を提供してまいります。

(1) リスク管理と安全管理体制の強化

鉄道輸送の最大の使命である「安全の確保」のため、日々の安全意識に基づく取り組みやリスク管理を徹底し、安全管理体制を継続的に改善・強化してまいります。

① 運輸安全マネジメントのさらなる充実

鉄道安全委員会や安全統括管理者ヒアリング、安全内部監査等により定期的な安全管理体制の見直しを行います。また、安全マネジメント勉強会や安全講話会を継続的に実施し、社員の安全意識向上を図るとともに、開業20周年を迎えるにあたり、社員が親しみやすい安全方針に改定するための検討に着手します。さらに、前例にとらわれることなく定例業務について継続的な改善を推進していきます。

このほか、「ヒヤリハット情報」を投稿しやすい仕組みの整備や、ヒヤリハット事例集を作成・活用することで、さらなる事故防止対策を推進します。



安全確保総点検の様子

② 組織的なリスク分析・管理の強化

鉄道輸送における様々なリスク対策を検討するチームを立ち上げる等して、リスク分析を実施・検討し、リスク管理を積極的に推進していきます。

③実践的な各種訓練の充実・強化

社員の安全意識を高め、知識・技能の習得・向上を図ることは「安全の確保」に不可欠です。

当社では階層別研修をはじめとする集合教育やOJT等の日常的な教育・訓練を継続的に実施することで、社員の業務知識習得、技術・技能の伝承と向上を図ります。また、社員の成長意欲を向上させるため、資格取得支援を継続します。

異常時の対応では、異常発生時に迅速かつ適切に対応できるよう、「飛来物除去訓練」、「夜間異常時訓練」、「バス代行輸送連絡訓練」に加え、「異常時総合訓練」を定期的に行っています。「異常時総合訓練」では、脱線・架線断線・レール破断等の復旧訓練のほか、実際にはしご車を使用して負傷者を救出する等、関係機関と連携した実践的な訓練を実施することにより、社員の対応力を高めています。

今後は、リスク評価結果を踏まえた、より効果的な教育・訓練についても検討を進めます。

このほか、駅係員を対象に「お客様に寄り添ったサービスの提供」を目的とした研修を実施していきます。



異常時総合訓練の様子



対策本部立ち上げ訓練の様子

④安全に関する人材育成強化

当社では、これまで他社の指定養成所において、乗務員の養成を委託してまいりましたが、2024年に首都圏新都市鉄道乗務員養成所を開所しました。これにより、自社による乗務員の養成を開始するとともに、乗務員養成所内の一部研修設備を当社社員の教育にも活用し、人材育成の強化を進めています。



乗務員養成所内部

(2) 予防保全による車両・設備の更新等の実施

安心と信頼の鉄道輸送の維持・向上のため、設備・機器類の適切な修繕・更新に取り組んでいきます。

①車体・車両機器の更新

開業当初から使用している車両は、20年を迎え、車体・車両機器の劣化が進んでいます。このため、その更新に向けた取組みを計画的に進めており、2025年度は車両の大規模更新や運転保安装置の更新に向けた機器製作を進めていきます。



車体更新場での更新

②きめ細かなレール探傷結果に基づくレール削正と交換の実施

レールの定期的な検査や交換を実施してきましたが、過年度に破断や損傷による輸送障害が発生しました。2025年度は、引き続き、予防保全の考え方に基づき、各種検査を適切に実施し、その結果を踏まえ計画的にレールの削正及び交換を実施します。



レール探傷検査

③変電所の更新

列車の運転や駅の照明等の電力源となる変電所について、今後の耐用年数を見据えた更新を行うため、基本設計・機器製作に着手します。また、2022年度から実施している変電所・配電所の直流電源装置更新工事について、2026年度の完了を目指して引き続き実施します。



直流電源装置

④信号設備の更新

信号設備の故障は輸送障害に直結するため、オーバーホールを実施し設備の信頼性を確保してきましたが、一方で、耐用年数を見据えた設備更新も必要となっているため、2024年度までに基本設計を実施し、工事計画書を作成しました。2025年度は、信号設備更新の詳細設計を実施します。



信号設備

(3) 防災・鉄道セキュリティ対策の強化

近年多発する豪雨等の異常気象や、切迫する首都直下地震等の自然災害に備え、防災対策を強化するとともに、鉄道セキュリティ対策をさらに充実させ、公共交通機関の安全確保に努めます。

①防災設備の更新

駅における火災等の早期発見と的確な初動活動に大変重要な機能を果たす、駅防災設備の更新を2025年度も継続して行います。駅防災設備の更新では、警報音を聞きとりにくいお客様にも光の点滅で火災の発生を知らせる光警報装置の導入も進めています。



駅防災設備

②大規模浸水対策の継続検討

河川氾濫時の避難対策強化のため、荒川氾濫時の避難を検討する「首都圏における広域的な避難対策の具体化に向けた検討会」や水系別の「減災対策協議会」に参画し、国や自治体と引き続き連携を図っていきます。また、台風等の災害発生時には、引き続き、河川事務所の情報を基に水位を監視していきます。

また、荒川の氾濫を想定したTX版タイムライン(防災行動計画)に基づく訓練や、対策本部設置訓練を定期的実施することにより、防災行動計画の継続的な改善を図ります。このほか、防水扉等の浸水防止器具や簡易設置型止水板の取扱い訓練を実施します。

③帰宅困難者対策

各駅で配布している沿線のウォーキングマップ“ARUKU”には、広域避難場所やトイレ等の震災時における避難情報を掲載し、帰宅困難者対策のツールとしてご利用頂いています。引き続き、関係自治体や他の鉄道会社との連携も図りながら、災害発生時に備えていきます。



帰宅困難者向け備蓄品

④鉄道セキュリティ対策の推進

防犯体制の強化のため、2024年度に全車両に防犯カメラを設置しました。2025年度は、各駅に設置されている防犯カメラについて、高画質な機器への更新及び増備に着手します。

また、お客様の安全と鉄道施設のセキュリティ対策を推進するため、警察との連携を強化します。具体的には、引き続きサイバーテロ対策協議会やテロ対策協議会に参画してテロに関する情報や知識を得るとともに、テロ対策訓練や防犯訓練を積極的に実施します。また、社員・警備員による駅や列車内の警備についても引き続き強化します。併せて、他社線で発生した列車内殺傷事件を教訓に、各駅に配備した防犯用具や避難用設備を活用するとともに、緊急時にお客様の協力を呼びかけるポスターを掲出していきます。



車両防犯カメラ

(4) 駅利用における安心の向上

すべてのお客様に安心して駅をご利用いただけるよう、駅構内における施設修繕・更新に取り組んでいきます。

① バリアフリー対策の推進

開業当初からバリアフリーに配慮した施設整備を行ってきましたが、国土交通省の「鉄道駅におけるプラットフォームと車両乗降口の段差・隙間に関する検討会」において新たな指標が整理される等、社会から求められる内容に変化が生じています。こうした状況を踏まえ、これまで実施してきた対策をさらに強化していきます。

車椅子スペースのある乗降口とホームの隙間が70mm程度となるよう、2021年度からくしの形の隙間対策ゴムを設置していますが、2025年度中の全20駅での設置完了を目指し、5駅（南千住駅・八潮駅（2、3番線）・三郷中央駅・みらい平駅・みどりの駅）における隙間対策ゴムを設置していきます。

また、ご高齢のお客様やお身体の不自由なお客様に、より一層安心・快適にご利用いただけるよう、「おもてなしの心」を身に付け「安全な介助技術」を修得したサービス介助士資格の新規取得を進めます。また、有資格者については能力を維持・向上していきます。

さらに、視覚に障害のあるお客様にも安心して駅をご利用いただけるよう、2024年度にQRコード※を活用した音声ナビゲーションシステムを地元自治体と連携してつくば駅に導入しました。2025年度は、設置駅拡大に向け検討していきます。

※QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標、JIS・ISO規格です。

このほか、リアルタイム音声認識システムを搭載した透明ディスプレイによるコミュニケーション支援について、2024年度に実施した実証実験の結果を踏まえ、実装に向けた検討を進めます。



駅ホームの隙間対策ゴム



視覚障害者向けナビゲーションシステム

② ホーム待合室の改修

お客様がホーム上で列車をお待ちいただく際に快適にお過ごしいただけるよう、待ち時間の長い一部の地上駅のホーム上の待合室を、冷暖房を備えた待合室に改修します。2025年度は、みらい平駅待合室の改修に取り組みます。



ホーム待合室（万博記念公園駅）

③ 駅誘導サインの改善の実施

駅構内がお客様にとって移動しやすく、分かりやすい、やさしい施設となるように、誘導サインの修繕・改善を実施します。



案内表示



整列乗車サイン(八潮駅)

④ お客様対応力の強化

これまで発生している事象をデータベース化し、その原因、背景等を調査分析した結果を活用して、社員の対応能力の向上に取り組めます。まずは駅構内での事象のデータベース化に取り組めます。

2 豊かな暮らしを支えるサービスの提供

開業20年を迎え、沿線の土地区画整理事業は概成し、人口が着実に増加しています。当社は、この間、輸送サービスの向上や駅構内等のサービスの充実を推進してきました。今後も、時代の変化に対応しつつ、お客様や沿線の皆様に豊かな暮らしを支えるサービスを提供してまいります。

(1) 混雑緩和対策の実施

抜本的な混雑緩和対策として8両編成化事業に取り組んでいます。混雑緩和に資するソフト施策も併せて実施し、今後も輸送サービスの快適性の拡充に取り組んでまいります。

① 8両編成化事業の推進

2023年度までに東京都内の地下6駅のホーム延伸工事が完了し、2024年度には北千住駅のホーム延伸工事に着手しました。2025年度は北千住駅のホーム延伸工事を継続するとともに、柏たなか駅のホーム延伸工事にも着手する予定です。



ホーム延伸部分

② 8両編成化に対応した総合基地整備事業の推進

総合基地は、これまで車両増備や車体更新等に対応して、留置線の増設や更新場の整備等を行ってきました。さらに、8両編成化等今後の車両の運用等に対応するため、基地を拡張する「総合基地整備事業」を推進しています。2025年度は、軌道及び電気設備関係の詳細設計や造成工事に着手します。



総合基地の全景

③ 混雑状況に関する情報提供の充実

当社では、朝ラッシュ時間帯の車内混雑状況についてHP上で情報を提供し、「オフピーク」通勤・通学へのご協力をお願いしています。今後とも、混雑状況に関する情報の充実を検討していきます。

(2) お客様の利便性・快適性の拡充

お客様の意識やご利用動向の変化等を注視し、時代の変化に対応した利便性・快適性に優れたサービスを提供していきます。

①QR乗車券システム及びクレジットカード等によるタッチ決済システムの導入

環境に配慮した持続可能な鉄道サービスの提供を目的として、磁気乗車券を廃止し、QRコードを活用したQR乗車券への置き換えを進めていきます。TX線全駅でのQR乗車券サービスの提供を目指し、お客様の利便性向上と、環境負荷低減に貢献していきます。

また、2025年度より、一部駅において、タッチ決済対応のカード(クレジットカード、デビットカード、プリペイドカード)を用いた乗車サービスの実証実験を開始し、TX線全駅でのタッチ決済乗車の提供を目指します。本サービスの導入により、お客様は、チャージする必要がなくなり、よりスムーズな乗車が可能となります。また、海外からの観光客の方々にとっても、便利な決済手段として期待されます。

※QRコードは、(株)デンソーウェーブの登録商標、JIS・ISO規格です。



QR、タッチ決済リーダー イメージ

②TXアプリの導入

TXアプリを導入し、一人ひとりのお客様が、運行情報や列車在線位置をどこにいてもリアルタイムで確認できるようにします。また、今後、機能の追加について検討を進めていきます。



TXアプリ イメージ

③駅における情報提供と情報発信の充実・強化

車内放送や車内表示内容を見直し、時宜に合ったご案内ができるよう、改善に向けた詳細設計を進めていきます。さらに、2024年度に各駅に情報案内ディスプレイを導入しました。列車遅延等の運行情報等コンテンツを分かりやすく提供し旅客の利便性を向上させるとともに、輸送障害時の配信機能を高める検討を進めていきます。

(3) 駅構内事業の充実

2025年度は、柏たなか駅コンビニエンスストア新設工事を進めるとともに、駅構内の催事にて使用する、販売・残置用のワゴンを作成し、地元中小企業を含む出店者のすそ野拡大を通じた催事の強化を進めていきます。また、TXアベニューをより便利で、魅力ある空間とするため、新規開発等の検討を進めていきます。

3 地域との沿線価値の共創

沿線自治体、まちづくり団体等との連携活動や、地球環境に配慮した活動等を通じ、地域との関わりを深めるほか、駅の機能の充実や保有資産の利活用を通じて、沿線地域をつなぐ鉄道として、地域とともに、さらなる沿線価値向上に貢献してまいります。

(1) 沿線地域との連携強化のための基盤づくり

沿線では企業、教育・研究機関、商業施設等の進出が進んでいますが、今後も沿線とともに成長し、さらなる発展に向けて地域との連携強化のための基盤づくりに取り組んでいきます。

① 沿線価値共創に向けた地域の関係者との連携体制の構築

沿線地域をつなぐ鉄道として、沿線の自治体や企業等の皆様とともに連携して、沿線価値をさらに高める取組みを検討・推進していくための体制の構築に向けた検討を進めます。

② 沿線の見どころや魅力の情報発信体制の強化

当社のWEBサイトやSNSにおいて、引き続き沿線の魅力の情報発信に努めてまいります。2024年度は、沿線のおすすめスポットをウォーキングで巡り、沿線地域の風景や歴史・文化等の魅力を感じ、探訪していただく「TX沿線トリップウォーク」を沿線自治体と連携して開催しました。2025年度は、観光スポット、モデルコース、PR動画の新規作成の継続のほか、SNSを活用したキャンペーン等の沿線自治体と連携したイベントを実施し、沿線の見どころ等の情報を積極的に発信していきます。



TX沿線トリップウォーク



新CM「いつもからその先へ」篇公開

③産業・研究・スポーツ・文化等における地域連携

多様性に富む地域社会の形成・発展に寄与するため、国内唯一の視覚障害者・聴覚障害者のための大学である筑波技術大学と2022年に連携協定を締結し、協定に基づく取組みを推進しています。具体的には、TXの設備や接遇に係る意見交換、小学生を対象にした鉄道施設のユニバーサルデザインや視覚・聴覚障害について学ぶ講座の合同開催、TXの異常時総合訓練への参加と意見交換のほか、2024年度には聴覚障害者への手話CGによる運行情報配信の実証実験を行いました。2025年度は、これまでの取組みを継続するほか、手話CGによる運行情報配信について実証実験を継続し実装に向けた検討等を行います。

また、ラグビーリーグワンの「NECグリーンロケッツ東葛」との「プロモーションパートナー契約」に基づき、ホストスタジアムの最寄駅である柏の葉キャンパス駅における駅装飾の展開のほか、様々なイベントを通じて沿線地域全体で盛り上げてまいります。

このほか、守谷市観光協会（市民ボランティア団体）が作り上げてきた「守谷野鳥の森散策路と鳥のみち（守谷野鳥のみち）」協働推進プロジェクトとの連携活動を引き続き推進します



NECグリーンロケッツ東葛プロモーション



「守谷野鳥のみち」の自然環境保全活動（守谷市）

④ESG・SDGsへの取組みの推進

沿線地域と連携し、当社の環境に関する取組み等を知っていただく「学ぼう!TX講座」の開催等を通じた環境コミュニケーション活動を継続していきます。

また、環境保全活動について、これまで実施してきた「守谷野鳥のみち」や「千代田区合同パトロール」に加え、2022年度から国土交通省が推進する「ボランティア・サポート・プログラム」や三郷市が主催する第二大場川清掃に参画しました。引き続きこれらの環境保全活動に取り組んでいきます。

さらには、つくば市が推進している脱炭素先行地域づくり事業に当社も参画していきます。



学ぼう!TX講座の様子

(2) 駅機能や保有資産を活用した沿線価値の向上

お客様や地域の皆様のニーズを捉え、街の顔である「駅」の機能の充実や高架下をはじめとする保有資産の利活用等を通じて、沿線価値のさらなる向上に貢献します。

①地域の関係者と連携した「駅」の機能の改善・充実

地域の顔でもある「駅」にスポットを当て、TX沿線のさらなるブランディング向上に向けて、今後の駅機能の方向性を取りまとめていくことを目的とした『駅機能のあり方勉強会』を2024年度に設置し、TXの象徴的なターミナルかつゲートウェイ駅であるつくば駅をモデルに、駅機能のあり方について有識者や関係者の皆様と議論をしました。2025年度は、この勉強会の成果を踏まえ、引き続き地域の関係者と連携して、具体的な改善に着手するとともに、駅機能のあり方についてさらなる検討の深度化を図っていきます。



駅機能のあり方勉強会

②沿線全体の発展に向けた高架下をはじめとした保有資産利活用の推進

沿線地域のニーズを踏まえ、駅間の高架下等の保有資産を活用して、沿線の街の賑わい創出や地域の活性化等につながる取組みを推進します。

(3) 交通政策審議会答申プロジェクトへの対応

東京都において都心部・臨海地域地下鉄構想の事業計画の検討が進められているほか、沿線自治体において「つくばエクスプレスと都心部・臨海地域地下鉄の接続事業化促進期成同盟会」が2024年12月に設立される等、関係者の取組みが深度化しています。こうした動向を注視するとともに必要な調査等を実施し、関係者の取組みのなかで適切に対応していきます。

4 経営基盤の強化

昨今の物価高騰、働き手不足、アフターコロナの働き方や生活スタイルの変化等の状況を踏まえ、人的資本投資の強化や財務基盤の強化等、持続的な事業運営のための経営基盤の強化に取り組めます。

(1) 人的資本投資の強化

① 多様な働き方を可能とする就労環境の充実や健康経営等の継続推進

働き方に対する社会環境や意識の変化に柔軟に対応し、社員一人ひとりが能力を最大限に発揮できるよう、働きがいのある就労環境整備をさらに推進していきます。2025年度は各駅事務室・寝室の改修及び増設工事や、乗務員宿泊施設の改修等の検討を進めます。

また、活力のある職場づくりや風通しの良い職場づくり、社内の知見の共有を図るため、社員と経営幹部が意見交換や交流を行う場である「チームTXミーティング」等を引き続き推進します。さらに、社長表彰制度をはじめとする各種社内表彰制度を活用し、社員の意識向上に取り組むほか、社員の福利厚生や資格支援制度のさらなる利用促進を図ります。

2024年度には、女性活躍推進法及び次世代育成支援対策推進法に基づく「一般事業主行動計画」を策定しました。2025年度は、これら計画に基づいて、引き続き、女性社員向け諸設備の充実と出産や子育てしやすい環境整備を推進してまいります。



駅休養室



八潮総合事務所

② 研修等の充実や自律的キャリア形成の支援

社内教育・研修等の充実や、資格取得の支援制度を通じて、知識やスキルの獲得、自律的なキャリア形成等を図り、これからのTXを支える人材づくりや社員のエンゲージメント向上に取り組んでいきます。2025年度は海外研修を実施します。乗務員については、長期的に安定して確保・育成していくために、首都圏新都市鉄道乗務員養成所を2024年に開所し、同年秋から第1回生の自社養成を開始しました。

③デジタル技術を活用した業務支援の充実

効率的な業務を図るためにデジタル技術の導入を推進していきます。2025年度は電気設備の保守管理システムの導入の検討を推進します。

(2) 財務基盤の強化

①戦略的な運賃の検討

事業環境に対応し、今後の8両編成化事業等のサービス改善や車両更新等の大規模な更新事業に備える適切な運賃水準の検討を行いました。当社の経営努力を前提として、今後も事業継続に必要な対応を着実に実施するため、また子育て世代に配慮した戦略的な運賃とすべく、鉄道の旅客運賃の上限変更認可申請を行います。

②資金管理の強化

資金繰りの精緻化や効率的な資金運用に努め、金融機関との関係強化を図りつつ、資金管理の強化に取り組めます。

(3) ガバナンスの強化

①既存の業務プロセスの改善

昨今の社会環境の変化に対応し、内部統制システムの充実を図るため、新しい知見や技術を基にした、既存の業務プロセスの見直しや事務機器・事務系システムの更新・拡充等に努めます。

②情報セキュリティの強化

2025年度は、時代や環境の変化に対応した、情報セキュリティの充実・強化を進めていきます。

(4) 開業20周年に向けた取り組み

2025年8月24日にTXの開業から20周年を迎えます。この機会に、ステークホルダーの皆様への感謝と関係性の強化、「沿線とともに成長し、世代を超えて愛されるTX」のイメージ浸透を図るべく、2025年1月から開業20周年記念事業を順次進めています。具体的な内容は都度プレスリリース等で公表する予定です。



開業20周年記念ロゴマーク

2025年度 設備投資計画

項 目	予算額
1 リスク管理と予防保全による安心と信頼の鉄道輸送の提供	35億円
予防保全による設備更新等の実施	33億円
その他	2億円
2 豊かな暮らしを支えるサービスの提供	39億円
混雑緩和対策の実施	18億円
お客様の利便性・快適性の向上	19億円
駅構内事業の充実	2億円
3 地域との沿線価値の共創	0億円
4 経営基盤の強化	7億円
人的資本投資の強化	7億円
総 額	81億円

